

教育目標		自主・自立の精神や豊かな表現力を持つ思いやりのある生徒の育成						
重点目標		東中しぐさ(心)の確立 → 和文化和心の融合						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
学力の向上	基礎・基本の徹底 確かな学力の向上	①基礎的・基本的な知識・技能を習得する ②定期テストの結果を分析し、効果的な学力向上策の実施する	①各教科で小テストを行い、適切に評価することで学習意欲を高める。 ②弱点項目(30%以下)について、質問しやすい声掛けや環境づくりをする。	①小テストなどの評価で適切に評価されているという回答が80%以上になる。 ②弱点項目の内容などに対する質問がしやすいという回答が80%以上になる。	C	関連するアンケート項目において例えば「家庭学習のための宿題が適切に出されている」項目において肯定的な意見が80%を超えているが「そう思う」が下がっている。まず、与えられた課題をきちんとやり遂げることが確かな学力向上につながるということを正しく理解させ、納得させることが必要である。	シラバスの活用は継続し、与えられた課題に取り組むことによつてどの力がどのくらいまでを説明する必要がある。授業においては発問等を工夫し、生徒の心によりそい質問しやすい「学習環境づくり」に努めていくことが大切である。	
	学習習慣の定着 読書活動の推進	①家庭学習を充実させる ②朝読書を通して読書活動を充実させる	①1日2時間の家庭学習を達成させる ②全員が集中して10分間の朝読書を行うよう指導する。	①「家庭学習のための宿題が適切に出されている。」という回答が、保護者、生徒ともに80%以上になる。 ②図書館の利用者数が前年度より10%以上増えるようになる。	B	「家庭学習のための宿題が適切に出されている。」項目で、肯定的な回答が、生徒は79%で昨年よりやや減少し、目標が達成できていない。保護者も71%で昨年よりやや減少し、生徒と保護者の感じ方に差がある。さらに家庭学習の時間の確保に努力を要する。読書活動の推進では、朝読し図書サポートだけでなく、ピピオバトルや学級文庫貸出活動など、読書活動に対する取り組みがあり、読書の推進に対する評価は、保護者はやや上がり、生徒はほとんど変わっていない。	家庭学習の時間の確保のため、宿題を定期的にしたり、興味関心を持って取り組めるような課題を出すなど、工夫が必要である。図書館教育指導員との連携を図り、生徒が図書室に積極的に来るような工夫をする。読書活動の意識付けとして学級文庫やピピオバトルだけでなく、各教科で図書室を利用した授業を実施したり、読書の推進の啓発活動など、図書室の活用によって読書に抵抗がない環境を作っていく。	
	指導方法の工夫改善 言語活動の充実	①ICT機器を活用した授業改善を行う ②授業における課題発表やスピーチの積極的な取り組み	①電子黒板や実物投影機等を活用した授業改善に努める。 ②各教科において1分間スピーチなど、生徒の発言の場を設定する。	①全教員がICT機器を活用できるようにする。 ②生徒アンケートの回答において、「先生は教員にいろいろ工夫している」、「授業はわかりやすく楽しい」の割合が85%になる。 ③定期テストで記述問題を含む小テストを作成し生徒の考えを引き出す工夫に努める。	C	教職員アンケートによると、ICT機器の使用については前年度とほぼ同じ結果となっている。一方、生徒・保護者のアンケート結果では「教員の方の工夫」や「授業のわかりやすさ」に関する回答結果は肯定的意見が低下している。特に、生徒アンケートの「授業は、わかりやすく楽しい」については、前年度と比較して10ポイント程度低下している。授業でのICT機器の活用や言語活動の工夫が、生徒たちの授業のわかりやすさにつながっていないことがうかがえる。	①教科の実情に合ったICT機器の充実(例:音声一体型など)を図るとともに、ICT機器を活用した授業づくりの工夫や改善に努める。 ②平時より、教科外の授業公開にも参加し、ともに高め合える授業研究を継続していく。 ③小テスト等で、授業中におこなったICT機器の活用や言語活動の工夫を盛り込んだ問題を作成する。	ICT機器を活用した授業がほぼ定着し、「わかる授業」を目指しているが、わかりやすさと楽しさを追求した授業の探求が望まれている。ICT教育の充実を図るためには、教員の研修が必要不可欠であり、個々の意識向上を図る必要がある。
豊かな心・健やかな体	不登校への対応	不登校生徒数を減少させる	不登校生徒を出さないための、伊丹市共通実践事項を実行する。学年の生徒指導の分掌の中で問題行動と不登校対応を分けることで教職員の負担を軽減する。	①不登校生徒数が前年比90%以下を目指す。 ②生徒アンケートの「自分を大切にすることや、他の人への思いやりについて教えてもらっている。」と回答する生徒が80%以上になる。	B	長期欠席生徒数は残念ながら減少しなかったが、関係機関との連携や個別に合わせた対応を行った結果、欠席日数が減少した生徒は増えた。今後は家庭連絡を密にし、家庭との連携して前向きに対応していく。	積極的に家庭訪問を行い、生徒、保護者との関係づくりを行い、放課後登校や別室登校などに個別に合わせた対応を心がける。また、関係機関との連携を密にし欠席数を減少させる対策を講じる。	情報の共有化と家庭背景を視野にいたれた家庭との連携強化が大切である。個々に応じた対応を今後も継続して行い、不登校対策会議等を活用して、対応を協議していく必要がある。関係機関との連携を今後もさらに図り、不登校撲滅に社会総がかりで取り組んで欲しい。
	問題行動への対応	問題行動を起こさせない指導体制を確立する	「みそあじ」を徹底し、問題行動を未然に防ぐ。	「ルールやマナーを教えてもらっている」と回答する生徒が80%以上になる。	B	生徒・保護者アンケートの「ルールやマナーを教えてもらっている」項目では、肯定的な意見が90%を上回っているが、教職員アンケートの「問題行動が起きた時、組織的に対応できる体制が整っている。」の項目で、肯定的な回答が80%を下回っていた。また、「みそあじ」の徹底ができなかったため対策をしていく。	「みそあじ」を徹底するために、各学期ごとに学校目標について自己評価アンケートを行い、各学期の始めにアンケート結果をもとにして重点目標を設定する。また、生徒会自ら発表していくような手立てを行っていく。組織的な対応をするための考え方やなどを若手教職員に伝達していく。	全体的に落ち着いた状況ではあるが、保護者・生徒との信頼関係の構築に力を注いで欲しい。「あたり前がひたむきに」できる生徒を育み、「みそあじ」を徹底するための体制づくりが必要である。また、研修体制の見直しを行っていくことが大切である。
	道徳教育の推進	豊かな心を育てる道徳教育の充実をはかる	ローテーション授業を行い、担任だけでなく全教員の実践力の向上をはかる。	各学年ごとに、年1回の公開授業を行う。	B	毎週の道徳の授業では、担任がそれぞれ工夫をして実践したが、今後さらに力を入れていく必要がある。ローテーション授業では教材の見直しが行われた。今後は学年の枠にとらわれず学校全体で取り組んでいくシステムを考える。	ローテーション授業においては、資料や指導案を検討する時間を確保するなど、さらなる改善を行い、内容の充実を図る。	道徳教育の教科化に向けた研修体制を確立していく必要がある。ローテーション授業の充実を図り授業力向上を目指し、いじめ防止に係る「心の教育」の充実を図っていくことが大切である。
	健やかな体づくりの推進	①健康管理の啓発を行う ②健全な食習慣の推進をはかる	①欠席調査を毎朝行い、感染症の拡大防止に努める。 ②保健だよりを通して、健康管理や健全な食習慣の啓発に努める。	①集団感染0を達成する。 ②保健だよりを月1回以上発行する。	B	①②共に概ね目標を達成することはできた。保健だよりはホームページに掲載し、啓発した。学校保健委員会では「睡眠と朝食の大切さ」に取り組んだ。また保健委員会による「カゼ調査」やグループアップ週間を利用し「手洗い」「うがい」「ハンカチ持参」の啓発をし、感染症予防に取り組んだ。しかし、その取り組みが家庭生活までには、振り返り改善がしきれなかった。	引き続き授業や保健だより、保体委員をつかい「早寝・早起き・朝ごはん」の声かけを行い、健全な生活習慣についての啓発や、感染症予防について取り組む。保体委員にとまらず、学校全体に浸透する取り組みを行う。学校給食実施に向けての準備を進める。	平成29年実施に向けた、中学校給食完全実施に向けて校内整備体制を再確認し、具体的な方策を示していく必要がある。さらなる委員会活動の活性化を図り、食育指導の充実、体力向上に向けて取り組んでいく欲しい。
開かれ信頼される学校	学校情報の積極的な発信	積極的に学校情報を地域、保護者、生徒に発信する	①学校だよりを年間20部以上発行し、学校掲示板に掲載する。 ②学校ホームページを月3回以上更新し、学校情報を積極的に発信する。 ③「しごと！東中」を有効的に活用する。 ④保護者メール配信を積極的に行う。	①学校だよりを年間20部以上発行する。 ②学校のホームページを月3回以上更新する。 ③保護者アンケートにおいて、「学校は保護者の願いに答えている」「学校は学校・学年便りやメール配信、ホームページ等を通じて学校や子どもの様子などをわかりやすく伝えている」の回答が90%以上になる。	C	ホームページは頻りに更新を行っており、メール配信も学校行事の案内に活用するなど、積極的な情報発信に努めている。しかし、保護者アンケートでは、「学校は学校・学年便りやメール配信、ホームページを通じて学校や子どもの様子などをわかりやすく伝えている。」の回答は90%を目標にしては85%であった。また、学校だよりは年間20部以上の発行を下回りそうである。	学校だよりや学年通信を保護者に渡していない生徒も少なくないと思われるので、学校だよりの発行時にメール配信をする。その大見出しも入れることで保護者が生徒から通信をもらう確率が上がるようにする。	今後も学校ホームページの改善・改良を重ね、より見やすい・わかりやすいホームページの作成に努めて欲しい。保護者・地域に学校への理解を深めていくためには、今後も積極的な情報発信を行っていく必要がある。生徒に、東中だより・学年通信・学級通信等を保護者に確実に渡す声かけなどを行っていくのもひとつの方法である。
	学校運営への市民参画	東中ファミリーサポーターズ・PTAとの連携強化をはかる	「サタスタ東」や「図書活動」「スマイル活動」などへの協力をPTA・地域に呼びかける。	①「サタスタ東」への生徒登録者が150人を超える。 ②ボランティアスタッフの登録数が70名を超える。 ③保護者アンケートで「学校はサタスタ東や図書活動などの取り組みを通して、地域や保護者との連携のもと積極的な教育活動を行っている」と回答した割合が80%以上になる。	A	サタスタ東の生徒登録者数は、目標の150人に満たなかった。その点は現在の状況に応じた目標数値に変える必要がある。また、毎回の参加生徒数が少なく、ややもすればスタッフの方が多い状況も変わりが無い。ボランティアスタッフの登録数については、今年度92名と大きく上回った。③のアンケート結果も達成目標を超えている。	引き続き活動するたのしみを維持し、参加生徒はもちろんだ、全生徒・全保護者に広報することにつとめる。	コミュニティ・スクール導入に向けた取り組みとして、東中ファミリーサポーターズの組織を活用していく必要がある。学校として、東中ファミリーサポーターズの在り方について見直しを図り、学校との連携強化に努めていく必要がある。今後も、保護者・地域をどんどん学校に巻き込み、共に学校運営に参画していく意識を向上していくことが大切である。
	安全・安心な学校づくり	避難訓練を徹底し、安全教育の取り組みを行う	学期に1回避難訓練及び安全教育を行う。	学期に1回避難訓練及び安全教育を行うことで、生徒の安全に関する意識を高める。	A	学期に1回訓練および、安全教育を行うことができた。保護者に安全教育をしているということを伝えられている。	引き続きホームページや学級通信、学年通信で、避難訓練や交通安全教室などについての情報発信をする。	教職員の危機意識を向上させ、DIG訓練のさらなる充実を図り、安全・安心な学校づくりに努めていく欲しい。
	キャリア教育の推進	①3年間を見通したキャリア教育を推進する ②小中高連携を推進する ③ボランティア活動を実施する	①進路学習ノートを活用した進路指導を行う。 ②小中高合同の行事を行う。2年生で高校訪問を行う。 ③夏休みの清掃活動を呼びかける。	①計画的に進路学習ノートを活用する。 ②小中、中高の十分な交流をはかる。 ③夏休みの清掃活動の参加率が全校生徒の20%以上になる。	B	小中・中高の交流は昨年並みに行うことができ、特に高校に見学に行ったことにより、進路意識が高まった生徒がいた。進路学習ノートは活用しているが、職業学習やライや「ウー」の準備が進路学習であると思われていない生徒がいると思われる。地域活性隊の活動が学校全体に周知されていないと思われる。	進路学習が受験指導のみでなく、将来のために身に付けることとして、進路学習であることを教える。地域活性隊の活動や周知されるように、掲示物の作成や呼びかけを行う。	社会人として自立していくことができる教育「キャリア教育」が求められており、今後も教職員の資質向上を図りながらキャリア教育の推進に努めて欲しい。
各学校園で特に取り組みたい課題	特別支援教育の推進	①個別の指導計画を作成する ②校内委員会を開催する	①教科担当の意見を取り入れ、個別にアセスメントシートを作成する。 ②月1回の開催を原則とし、必要に応じて随時ケース会議を開催する。	①個別の指導計画に基づき、「生徒一人ひとりの教育ニーズに応じた指導に努めている」の肯定的回答が80%以上となる。	B	個別の指導計画「アセスメントシート」の作成はできていたが、これを支援にうまく生かしていない。また、情報を教員間で共有することが課題である。抽出した生徒について、具体的な支援を行う。	研修の受講等により基礎的な知識・技能の向上を図る。 学年会やケース会議での情報を職員会で報告する。	個別の指導計画「アセスメントシート」を活用し生徒支援に繋げていく欲しい。関係機関との連携を図り、今後も教育支援委員会やケース会議を継続して行い、さらなる支援体制の確立を目指していく必要がある。
	子どもたちの一人ひとりの個性や能力に応じた教育の推進	①Q-Uを活用したバランスのとれた集団づくりを行う。 ②学級・学年でのリーダー育成を行う ③礼儀と規律ある部活動の推進をはかる	①年2回Q-Uを実施し、学級の現状を把握する。 ②リーダー研修会や専門委員会を定期的に行う。 ③月1回部活動集会を実施する。	①各学年で抽出クラスを決定し、学年全体でQ-U結果向上のための意見交換を行っている。 ②夏季休業にリーダー研修会を実施し、リーダー育成を推進する。月1回専門委員会を行っている。	A	目標を全て達成することができた。特に、Q-Uは全クラスで実施し、学年全体で意見交換を行うことで、丁寧に生徒の実態を把握することができた。しかし、アンケートの結果は前年度とほぼ変わらないので、より良いするための方法を検討する必要がある。	Q-Uで生徒の実態を把握しているにもかかわらず、生徒アンケートの「先生は一人ひとりの状況に応じたきめ細やかな指導をしている」に対する肯定的回答は約60%である。Q-Uの結果を活用し、生徒への働きかけをより充実させていく。	Q-Uにおける検証・分析結果を今後も活かす、生徒一人ひとりを大切に教育の推進に努めて欲しい。よりきめ細かな指導を心がけ、生徒に向き合う時間を教員自身が確保していく必要がある。
	安全で快適な学校施設整備	①無言清掃を徹底する ②情報教育機器の整備を拡充する ③教育環境の整備を行う	①徹底した無言清掃を行う。 ②備品管理を徹底させる。 ③図書館、武道場の有効利用を行う。	①「学校が生活の場として、清潔で美しく整っている」の回答が80%以上になる。 ②③「図書館やコンピュータ室が使いやすい」と回答が80%になる。	C	環境美化においては、生徒・保護者とも、目標を達成することができたが、職員は10%減っている。図書館やコンピュータ室の利用については、生徒の評価が低かったためとした。コンピュータ室については3学期に技術の授業で利用するため、また武道場工事のためアンケートは時期的に数値に反映されにくかった。	コンピュータ室の解放は難しいため、「図書室が使いやすいです。」という質問の文言を変え80%以上の評価を目指す。	立腰教育・無言清掃が定着してきたが、校内体制を確認していく必要がある。また、立腰教育・無言清掃をいかに学校教育に生かしていくかを考える時期にきている。
	学校関係者評価総括		知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成を図り、地域・保護者・生徒に愛される学校づくりを目指していく。					
次年度に向けた重点的な改善点 不登校生徒へのきめ細やかな対応、さらなる学力向上、「文武両道」を軸とした生徒の育成を図っていく。								